

セッション 4：一般未来研究  
8. 楠木孝昭氏（発表レジメ）

## バックカスティング ～スウェーデン2021から環境法典へ～

2007-11-10 新日本未来学会 理事 楠木孝昭

資料提供 レーナ・リンダル <http://www.netjoy.ne.jp/lena>

小寺昭彦

バックカスティング：未来のビジョンから現在何をするかの計画をたてる

例：ナチュラル・ステップ [http://www.tnsij.org/about/flame/f\\_01.html](http://www.tnsij.org/about/flame/f_01.html)

スウェーデン 2021：（1998年に政府への提言）

「一世代で主な環境問題が解決された社会を作り、次世代にひきつぐ」

重要：一世代（＝25年）の意味

- (1) 必要な構造改革をするのに十分な時間
- (2) 技術の発展をある程度正確に予測できる
- (3) 現世代で責任が持てる

### [ビジョン]

- ・私たちは小さなエネルギー効率のよい家に住む
- ・食料生産に使われるエネルギーは1/3に減少する
- ・私たちが消費する肉は、放牧地で育てられた牛は羊である

15の環境目標（現在は16）を決め、それを達成するために、環境法典ができた。

目的：私たちと私たちの未来の世代が健康的で良い環境で生活できることを保証

事業者の立証責任：

- ・事業を遂行する者は、この章に示される責務が遵守されていることを示す。
- ・人の健康と環境を損害や妨害から守るために必要な知識を取得する。

その結果は？

2021リーダーのアニータさんいわく「25年で持続可能な社会はかなり実現できる。しかし自然の復元にはそれ以上の時間がかかる」